

むらの底力 江戸木版画職人（商家：本・瓦版の店）

浮世絵の摺り （うきよえのすり）

多色刷りの浮世絵は、絵師が描いた下絵を彫師が絵柄の色ごとの版木を彫り上げ、仕上げの最後の工程を摺師が受け持ちます。その工程は、刷毛で顔料を版木に染み込ませ、紙をのせてバレンで紙の上から力を入れて押して摺り、必要な色数だけそれぞれの版木を重ねて摺ると出来上がります。



松崎 啓三郎氏（東京都）

中学卒業後、浮世絵摺師につき木版画摺りの技術を習得した。現在、浮世絵版画彫摺技術保存協会理事として、木版画の普及に貢献している。